

自己評価			学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標・活動計画	評価		学校関係者の意見	
		評価指標	評価指標による達成度			
中高一貫教育を推進する。	[1] 中学・高校の一体的な活動が生み出す相乗効果により、本校教育を活性化させる。 [教務課・進路指導課・特別活動課]	重点目標[1] 中学生と高校生の交流活動を、年間延べ10日間以上実施する。	自然体験学習(2日間)、富東祭(3日間)、演劇鑑賞会、郷土の先輩の講演会、生徒総会、防犯講話、部活動紹介等を中高合同で実施した。	A	総合評価 B	平成22年度は、中1と高校生ということもあり、年齢や感じ方に差があり互いに遠慮しながらの対応であったと思いますが、双方とも県南一の中学校・高校だという自負もあり、受入がスムーズにしているように思われます。中学生の2年・3年ができる24年度になると、中高の生徒のつながりが今よりもっと強くなると思われます。そのためにも現在行っている教師の交流により、意識の改革やカリキュラム等の研修がますます深まっていくことを期待しています。中高一貫教育のメリットとデメリットの両面について、まだまだ十分な分析がなされていないように思う。県外の中高一貫の伝統校の実践例等、この点についてより広範囲に比較検討し、本校の(公立の中高一貫校としての)運営方針に明確に生かしていくことが望まれる。
		重点目標[2] 中高教員によるTT指導を各学級週4時間以上実施する。中高連携授業研究会を年間3回以上実施する。中高接続検討委員会を組織する。	数学は各学級週2時間、英語は各学級週2時間、合計週4時間の授業で中高の教員によるTTを実施している。中高連携授業研究会を年間9回実施した。今後の学級数の変化や生徒の能力等を分析し、本校の実態にもっとも適合する中高接続のあり方について検討中である。	B		
	[2] 中高一貫教育の長を生かし、生徒一人一人に応じた学習指導を実践する。 [学力向上検討委員会・各教科]	活動計画	活動計画による実施状況			
	* 富東祭(文化祭・体育祭)や自然体験活動等の学校行事を中高合同で実施する。	体育祭では、応援合戦に練習時から中学生も加わり、高校生と交流できた。				
	* 部活動で中高合同の練習を行う。	ほとんどの文化部、またバドミントン、バレーボール、軟式野球、バスケットボール、剣道の運動部も中高合同練習を実施している。				
	* 生徒会活動に中高合同で取り組む。	生徒総会では、中学生も堂々と意見を発表した。校誌「唐梅」の編集等で、中高合同の生徒会活動ができた。				
	* 中高教員によるチームティーチング等を実施し、工夫・改善を図る。	数学・英語とも、中学校教員1名(週4時間)と高校教員2名(週2時間×2名)によるTTを実施した。				
	* 中高教員による中高一貫教育検討会・教科研究会を実施する。	今年度中に組織づくりを完了し、来年度当初から検討を開始する。				
	* 中高相互の授業見学、研究授業及び研究協議を行う。	10月25～28日に、相互授業参観週間を中高合同で実施した。また、中学校の全体研究授業(年間2回)や、高校の初任者研修研究授業を、中高連携のもとで実施した。				
	* 中高合同の学力向上検討委員会等において、生徒の学力向上を図る授業の展開を検討する。	今年度中に組織づくりを完了し、来年度当初から検討を開始する。				

自己評価			学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標・活動計画	評価		学校関係者の意見
地域と連携し地域に開かれた学校づくりを推進する。	<p>[1] 地域の教育力を活用するとともに、地域と連携した教育活動を推進し、地域に信頼される学校づくりに努める。 [教務課・特別活動課]</p> <p>[2] PTA活動の充実・促進に努め、教育活動全般について、保護者との連携を図る。 [総務課・進路指導課・人権教育課]</p> <p>[3] 学校行事の積極的な公開に努め、活動を周知し、地域に開かれた学校づくりを推進する。 [特別活動課・体育科・教務課]</p>	評価指標	評価指標による達成度		<p>通学範囲が広く、「私たちの町の学校」という感覚は持たれていないと思います。中高の保護者を地域の代表という感じにとらえていいと思います。保護者のアンケートで、99%が行事や授業参観等保護者が参加できる機会を適切に設けていると答えており、学校の姿勢や方針が理解されていると思われます。長期休業中の三者面談は、学校側にとって大変だと思いますが、生徒の理解や成長に欠かせないものだと思いますので、続けてほしいものです。学校行事の積極的な公開等、地域との関わりを大切にして地域に開かれた学校づくりを推進しようとする意欲が感じられる。PTA組織の拡充も含めて、今後の取組に期待したい。</p>
		活動計画	活動計画による実施状況		
		<p>重点目標[1] 学校評議員会・関係者評価委員会を年間2回開催する。 阿南市内の小中学校・教育機関との連携を図る。 地域人材を活用した教育活動を年間2回以上実施する。</p> <p>重点目標[2] 教職員と保護者との連携を密にする。 PTA組織を整備し、各専門部の活動を充実させる。</p> <p>重点目標[3] 学校だよりを年間4回、学年だよりを年間8回発行する。 ホームページを月2回以上更新する。</p>	<p>A 学校評議員会・関係者評価委員会を年間2回開催した。 阿南市教育会、中教研等の組織に加入した。 地域人材を活用した教育活動として、郷土の伝統文化(阿波踊り)、郷土の先輩による講演会(日垂化学)を実施した。</p> <p>B 学校評価アンケート(保護者)の結果、「学校は保護者と協力して教育活動を行っている」と答えた保護者が82.0%であった。 各専門部の活動記録等をまとめたPTA広報紙を3月に発行する。</p> <p>B 2月までに学校だよりを3回、学年だよりを7回発行した。年度内に各1回発行予定。 2月までに中学校ホームページを21回更新した。</p>	<p>総合評価</p> <p>(所見) 阿南市に所在する県立中学校として、阿南市立の各中学校や各教育機関・地域との連携づくりを進めることができた。 PTA活動も、まだまだ発展途上ではあるが組織としての土台を築くことができた。今後、組織体制の整備と活動の充実を図っていきたい。</p>	
		<p>* 学校運営について有識者から意見を聞き、学校運営に反映させる。 * 阿南市中学校教育研究会等の教職員研修組織に積極的に参加する。 * 部活動や合同開催行事等を通じて、生徒間の交流を進める。 * PTA総会や夏季休業等の機会を活用して学級懇談や個人懇談を実施し、保護者との情報交換を行う。</p>	<p>学校評議員を10月と2月に開催し、学校の教育活動全般についてご意見をいただいた。 阿南市の中学校の一員として、各教職員が各教科・道徳等の研究会に参加した。 運動部の練習試合や、合同チームの編成等で、阿南市の中学校と連携している。 夏期休業中・冬期休業中に各1回、生徒・保護者・担任による面談を実施した。</p>		
<p>* PTA総会やPTA研修会の内容を保護者のニーズに合ったものになるように工夫する。</p> <p>* 阿南市PTA連合会の活動に積極的に参加する。 * 富東祭・ふれあいフェスタ・公開授業等の公開行事を積極的に開催する。</p>	<p>給食試食会と授業参観、また、開校記念植樹と授業参観を組み合わせるなど、より多くの保護者の参加が得られるよう工夫した。</p> <p>阿南市の学校の一員として、市P連球技大会等の行事に参加した。 富東祭・ふれあいフェスタを公開し、より多くの方から学校への理解を得られるよう努めた。</p>				
<p>* ホームページを定期的に更新し、学校行事や部活動の状況等学校の取組を発信する。</p> <p>* 入学者募集説明会の開催や学校案内の配布により、小学生や保護者に対する広報を行う。</p>	<p>行事や部活動などの学校生活、PTA活動の状況、また、入試関係の情報等をホームページを通じて発信した。</p> <p>10月に県内すべての小6生に案内を配布し開催した生徒募集説明会には、前年を上回る558名の参加があった。</p>				

自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見	
授業に対する生徒の学習意欲や充実感の向上を図り、生徒一人ひとりの学力向上をめざす。	<p>[1] 教員の指導力の向上と、各教科における指導方法の改善を図る。 [学力向上検討委員会・教務課・進路指導課]</p> <p>[2] 生徒の学習意欲や達成感の向上をめざし、生徒一人ひとりに応じた学習指導を実践する。 [学力向上検討委員会・各教科]</p>	<p>評価指標</p> <p>重点目標[1] 研究授業(大研)を年間2回以上実施する。 相互授業参観を全教員が年間1回以上実施する。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>9月17日に教科指導(国語・藤岡教諭)11月29日には総合的な学習の時間(土肥教諭)の校内研究授業を実施し、指導力の向上を図った。 10月25日~28日を相互授業参観週間とし、全教員が相互授業参観を実施した。 学校評価アンケート(生徒)の結果、「学習意欲が高まっている」と答えた生徒が75.0%であった。 学校評価アンケート(保護者)の結果、「学校は生徒に学力をつける学習指導ができている」と答えた保護者が92.3%だった。</p>	<p>総合評価</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>(所見) 学習指導に関しては、当初の計画をほぼ達成することができ、生徒・保護者から良好な評価を得ることができた。 研究授業の実施など教員の指導力向上につながる取組も充実させることができた。 今後の課題としては、中学生として望ましい家庭学習の習慣が定着していない生徒が予想以上に多かったことがあげられる。</p>	<p><課題> すべての生徒が意欲を持って楽しく学ぶ教育活動を充実させる必要がある。</p> <p><方策> 研究授業等の校内研修を充実させ、指導力の向上を図る。 放課後の個別指導を充実させる。 生活実態調査や学習状況調査を効果的に実施する。</p>
		<p>重点目標[2] 学習意欲が十分にある生徒90%以上。 学力が十分に伸びていると感じている生徒90%以上。 授業への満足度80%以上。</p>	<p>学校評価アンケート(生徒)の結果、「授業に積極的に取り組んでいる」と答えた生徒が87.5%であった。 学校評価アンケート(生徒)の結果、「1日2時間以上の家庭学習をしている」と答えた生徒が67.5%であった。</p>		
		<p>重点目標[3] 家庭での平均学習時間1日2時間以上・・・80%以上。</p>	<p>学校評価アンケート(生徒)の結果、「1日2時間以上の家庭学習をしている」と答えた生徒が67.5%であった。</p>		
	<p>活動計画</p> <p>* 研究授業・公開授業・外部講師招聘による教員研修、授業評価アンケート等を実施する。 * 学力向上検討委員会において、生徒の学力向上を図る授業の展開を促す。 * RRCの実施や具体的な学習目標の設定により、学習意欲の向上を図る。 * 学習内容が定着していない生徒に対しては個別指導を実施する。 * 学習状況実態調査を実施する。</p>	<p>活動計画による実施状況</p> <p>教職員研修課指導主事の訪問を要請し、研究授業を実施した。また、公開授業を年間に5回実施した。 学力向上推進教員を中心に、研究授業・相互授業参観等を通じて、授業改善や指導力向上に努めた。 学習到達度確認テスト(RRC)を、年間9回実施した。「RRCを基礎的・基本的な学力を身につけるために役立てている」と答えた生徒が93.7%であった。 各教科において、定期テストやRRC等で目標点に達しなかった生徒に対して、放課後の個別指導を実施した。 定期的に学習状況の実態を調査し、学習習慣の改善指導等に役立てた。 定期テスト時の学習記録表や生活ノートを通じて生徒の学習状況を把握し、面談や個別指導を通じて家庭学習習慣の定着に努めた。</p>			
<p>[3] 家庭学習との連携を図った学習指導を実施する。 [学年会・各教科]</p>	<p>* 教科担任は計画的・効果的に課題を出し、ホームルーム担任は学習記録表を提出させる等、家庭学習習慣が定着するように努める。</p>				

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見	
基本的な生活習慣を確立し、安心・安全な教育環境を整える。	[1] 基本的な生活習慣の定着を図るとともに、校則の意義を理解し、規律正しい学校生活・家庭生活ができるようにする。 [学年会・生徒指導課・各教科] [2] 生徒間の良好な人間関係を築き、安心して学ぶことのできる環境を整える。 [学年会・生徒指導課] [3] 学校内外の健康的で安全な教育環境を整える。 [学年会・生徒指導課]	評価指標 重点目標[1] 遅刻ゼロの生徒90%以上。校則が守れる生徒90%以上。あいさつがきちんとできる生徒90%以上。	評価指標による達成度 2月現在、遅刻ゼロの生徒が93.8%。学校評価アンケート(生徒)の結果、「校則を理解し守っている」と答えた生徒が92.6%、「あいさつをきちんとしている」生徒が98.8%であった。	総合評価 A (所見) 校則やあいさつに関するアンケート結果はたいへん良好で、基本的な生活習慣や規律正しい学校生活に関する目標を達成することができた。また、生徒同士、あるいは生徒と教師の人間関係も良好で、学校生活への高い満足度につながっていると考えられる。ただ、下校中の交通事故が1件あり、大事には至らなかったものの、指導のあり方を検討する必要があると言えよう。	<課題> すべての生徒が学校生活を楽しんでいる教育環境を整える必要がある。 <方策> 生徒会によるあいさつ運動やボランティア活動を充実させる。生活ノートを活用し、個々の生徒の悩みや学級の問題点を発見し、早期の解決を図る。立哨交通指導などの安全指導を充実させる。
		重点目標[2] 学校生活を楽しいと感じている生徒90%以上。不登校の生徒ゼロ。いじめを見逃さない環境を確立する。	学校評価アンケート(生徒)の結果、「学校に来るのが楽しい」と答えた生徒が90.0%であった。2月現在、不登校の生徒はいない。2月中にいじめ実態調査を実施予定。		
		重点目標[3] 登下校時の交通事故ゼロ。校内事故を最小限に抑える。	下校中の交通事故が1件発生。(自転車通学生・軽傷) 部活動中の事故が1件発生。(テニス部・骨折)		
		活動計画 *生徒指導課が中心となり、全教職員間で共通理解を図り、望ましい生活習慣の育成に努める。 *HR担任と教科担任は、始業のチャイムを教室で聞く。 *ホームルーム活動、全校・学年別集会を通して、服装・頭髪・マナーについて自覚を高める。 *定期的に生活実態調査を実施する。 *生活ノートや面談を通じて、生徒の悩みや心の葛藤、人間関係のねじれ等を早期に発見する。	活動計画による実施状況 高校生と一体の学校生活の中で、中学生が守るべきルールについて検討し、教職員間の共通理解を図るとともに、生徒への定着に努めた。 始業のチャイムと同時に授業を始める習慣が定着した。 生徒会活動での服装チェックや、定期的に行っている昇降口指導により、「制服を美しく着こなす意識」が定着した。 定期テストの実施に合わせて生活実態調査を実施し、生活習慣の改善指導に役立てた。 毎日の生活ノートを活用して、生徒の悩みや学級の問題点を発見し、早期の解決を図ることができた。		
		*定期的に校内施設を点検し、生徒の目線で危険箇所の発見に努め、危険箇所は直ちに改善する。	月1回の校内点検を実施し、施設・設備の不具合を整備した。		
		*生徒の通学状況から、通学路の危険箇所をチェックし、定期的に交通立哨を行う。	登校時に、阿南市役所前等での立哨交通指導を、年間15回実施した。		

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見		
生徒の個性を活かした文武両道の教育を推進する。	<p>[1] 豊かな体験活動を取り入れた学習活動や部活動の充実により健全な心身を育成する。 [特別活動課・教務課・学年会]</p> <p>[2] 特色ある学校づくりを推進し、富岡東中学校のスクールアイデンティティを高める。 [教務課・学年会・各教科]</p>	<p>評価指標</p> <p>重点目標[1] 部活動の参加率95%以上。市レベル以上の各種大会・コンクール等での入賞が、年間延べ20人以上。体験的な学習活動を年3回以上実施する。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>2月現在、部活動の参加率100%（休部中の生徒1名）。日本学生科学賞県審査で、最優秀賞（県知事賞）に本校生徒の研究2点が選ばれたほか、県・市の各種大会・コンクール等で多数の入賞があった。自然・伝統文化・国際理解に関する体験学習を各1回実施した。</p>	<p>総合評価</p> <p>A</p>	<p>22年度は1学年のみということもあり、順調にスタートを切れたと思いますが、部活動では学年の枠を超えた活動とはならなかったのではと感じます。高校生と一緒にする活動は、双方に体力・能力の大きな差異のため遠慮や気遣いが大きかったのではと思います。高校生の良いお手本と、それを見ながらの活動という面では、1年生としては良かったと思います。自分たちが上級生となる23年度以降にこの経験を生かしてほしいものです。科学・美術面においても活発な取組が様々に実を結びつつあることがうかがわれる。今後の課題とされている部活動における施設・設備や指導体制の整備については早急に改善されることを願う。</p>	
		<p>重点目標[2] 朝夕の富東タイムを確実に実施する。全校的なボランティア活動を実施する。</p>	<p>活動計画による実施状況</p> <p>朝の富東タイム実施回数103回。夕べの富東タイム実施回数78回。3月に学校周辺の清掃活動を実施予定である。</p>			<p>A</p>
		<p>活動計画</p> <p>* 中学1年生は、原則として部活動に全員入部する。</p> <p>* 部活動顧問と学級担任の連絡を密にし、継続的に活動できるよう支援する。</p> <p>* 部活動指導の充実に努め、各種大会やコンクールに積極的に参加する。</p> <p>* 校外施設を活用し、自然体験学習や伝統文化研修を実施する。</p> <p>* 朝夕の富東タイムを着実に実施し、内容の充実に努める。</p> <p>* 伝統文化研修や国際交流など、社会貢献プロジェクトの土台となる活動を推進する。</p> <p>* リサーチ&レポートの実施に向けて、各教科等において調査力や考察力、表現力を育てる。</p>	<p>学級担任による入部指導や、高校生による部活動紹介により、1年生全員が入部した。</p> <p>高校の部活動との一体的な活動や連携を充実させること、また、中学生の活動場所の確保等の課題を解決する必要がある。</p> <p>阿南市総体・新人大会の各種目に出場した。また、県・市の駅伝大会に選抜メンバーが出場した。音楽創作コンクールなどにも出場した。</p> <p>牟岐少年自然の家での自然体験、阿波十郎兵衛屋敷での人形浄瑠璃体験、藍の館での藍染め体験を実施した。</p> <p>朝の富東タイムでは読書・新聞を活用した表現活動・短歌の創作等の活動、夕べの富東タイムでは基礎英語の学習により確かな学力を育てている。</p> <p>藍染めや阿波踊り等の伝統文化を学習し、オーストラリアからの留学生との交流に生かすことができた。</p> <p>各教科の特性を生かし、自ら課題を見つけて調査研究したり、分析結果をまとめたり、分かりやすく説明したりする学習活動が充実するよう努めた。</p>			<p>(所見)</p> <p>理科の研究で県知事賞を受賞し、富東タイムの活動成果が新聞にたびたび掲載されるなど、本校のめざす教育の特色づくりを進めることができた。</p> <p>部活動には、1年生全員が入部し、学校生活の充実につなげているが、施設・設備や指導体制の整備は、今後の大きな課題であると言える。</p> <p>体験学習も計画通りに進めることができたが、系統的なカリキュラムにしていくことが課題である。</p>

< 課題 >
部活動における施設・設備や指導体制を整備する必要がある。

< 方策 >
高校の部活動との一体的な活動や連携を充実させる。
中学生の部活動の活動場所を確保する。
状況により外部指導者の活用を図る。

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見		
人権と環境に対する高い意識を育てる教育を实践する。	<p>[1] 生徒一人ひとりの人権尊重の意識を高め、人権感覚をみがくために、教育活動全般をととした人権教育の取組を充実させる。 [人権教育課・学年会・各教科・総務課]</p> <p>[2] 校舎内外の環境美化に努めるとともに、環境問題に対する理解を深め実践力を育てる。 [環境保健厚生課・各教科・学年会]</p>	<p>評価指標</p> <p>重点目標[1] 道徳・特別活動・各教科等における人権教育を年間計画に位置づける。 意識調査において生徒の人権意識に十分な高まりが見られる。 保護者等への人権啓発活動を実施する。 人権問題教職員研修会を年間2回以上実施する。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>各教科や道徳等における人権教育の年間指導計画を作成した。 中高合同のPTA人権教育研修会・中学校PTA人権教育研修会を各1回開催した。 阿南中学校区人権教育研究会に加盟し、見能林小学校で開催された本年度の研究会に参加して、人権問題・人権教育研修に取り組んだ。</p>	<p>総合評価</p> <p>A</p>	<p>人権教育という面では、生徒たちが仲間とのかかわりや学習の中で自分を高め、自分の考えや行動の中で自信をもって物事を判断できる人になってほしいものです。 自分の子どもさえ良かったら、教科の成績さえ良かったらという親が多いのではと思いますが、親や社会の多数の人々の差別心や不合理に流されることなく、自分なりの考えを自信を持って表現できる人間に育ててほしいものです。 人権及び環境問題については、知識とともに実践が重要であると一般に言われていることから、地域との連携や学外での研修も含めて、今後も学習方法を研究・工夫して、様々な今日的課題に対応できるように努めていただきたいと思う。</p>	<p><課題> 人権と環境を柱とした教育活動の推進体制と指導計画を整備し、着実に実践する必要がある。</p> <p><方策> 人権教育・環境教育における地域との連携を図る。 資源ゴミの分別回収や廃油の回収など現在の取組を充実させる。 体験的な学習活動を取り入れる等、人権教育の学習方法を工夫改善する。</p>
		<p>重点目標[2] 道徳・特別活動・各教科等と連携した環境教育を計画的に実施する。 学校版環境ISOを取得する。</p>	<p>各教科・道徳・総合的な学習の時間で、「環境と人権」を柱とした教育活動を実施した。 徳島県教育委員会から、平成22年度「学校版環境ISO」認定校に選ばれた</p>			
		<p>活動計画</p> <p>* 人権教育課の計画のもと、学級担任と教科担任、また学年組織が連携して人権教育を推進する。 * 生徒を対象に人権問題意識調査を実施する。 * PTA 人権教育部の活動を工夫する。 * 人権問題授業参観を実施し、保護者に参加を呼びかける。 * 清掃指導に重点的に取り組み、学期末や行事の折には大掃除を実施する。 * 紙の有効利用等、省資源活動に取り組む。 * 資源ゴミの分別収集をし、ゴミ削減に取り組む。 * 廃油（天ぷら油等）の回収活動に取り組む。</p>	<p>活動計画による実施状況</p> <p>人権作文や人権意見発表会の開催等、人権教育主事を中心となり、各学級が共通歩調で計画的に人権学習を進めた。 5月に生徒の人権意識調査を実施し、その結果をふまえて、その後の人権学習を推進した。 中高合同のPTA人権研修では対話型の研修を、また、中学校PTA人権研修では、生徒の意見発表をもとにしたグループ研修を実施した。 10月24日(日)に人権問題授業参観を実施し、保護者60名以上の参加があった。 日常の清掃を放課後実施に変更し、給食との関係で昼休みが短い中学生も十分に取るようにした。 教職員のプリント裏面利用や、水道・電気の月別使用量のグラフ化等による節電・節水に取り組み、省資源・省エネルギーに努めた。 可燃物・不燃物、また、再生ゴミや資源ゴミをそれぞれ専用のゴミ箱で回収し、ゴミ置き場での分別を徹底した。 生徒玄関に廃油回収ボックスを設置し、各家庭から天ぷら油等の廃油を回収している。</p>	<p>(所見) 人権意見発表会では、生徒の高い人権意識を感じ取ることができ、本校の人権教育推進体制づくりも一定の進展があった。 環境教育でも、学校版環境ISOの認証を取得することができ、環境に対する意識も高まった。 しかし、「人権と環境」を柱とする教育活動としてはまだまだ不十分であり、今後の推進体制づくりと綿密な指導計画、そして実践が必要である。</p>		